

## 基本計画語句説明（2 分野）

## 2-1 地域産業の活性化

## (1) 新たな産業の展開

## ※1 コミュニティビジネス

地域の課題をビジネスの手法を活用して解決する事業活動のこと。

## ※2 f-Biz (エフビズ) モデル

f-Biz は静岡県富士市産業支援センターの略称。マーケティング、デザイン、販路開拓、ブランディングなどの専門家チームによる伴走型の経営支援を行っている。同様の手法を採用する中小企業支援拠点が全国で展開されており、f-Biz モデルと言われている。

## (2) モノづくりの振興

## ※3 販路拡大コーディネーター

ものづくり企業等の販路拡大、取引マッチングなど、ビジネスチャンスを拡大するため助言や情報提供を行う専門のアドバイザー。

## ※4 IoT

「Internet of Things」の略。「モノのインターネット」と呼ばれ、「身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながる」仕組みのこと。

## ※5 オープンイノベーション

新技術の開発などに際し、組織の枠組みを越え、広く知識・技術の結集を図ること。

## ※6 研究シーズ

科学技術研究の種(Seeds)、つまり将来花開き実を結ぶ可能性の高い研究を指す。

## 2-2 コミュニティ活動の活性化

## (1) コミュニティ活動の支援

## ※7 地域円卓会議

町会・自治会、青少年地区委員会、赤十字奉仕団、民生・児童委員、小学校・中学校 PTA、商店街・企業など地域の様々な活動団体がお互いに活動内容を理解し、情報交換をすることで、今まで以上に地域での連携を深めるきっかけを作るために開催している会議。

## ※8 地域の課題解決プロボノプロジェクト

東京都主催の事業で、町会・自治会の課題解決のために、企業人等が仕事で培った経験やスキルを活かしたボランティア活動「プロボノ」によって支援を行う。

## ※9 地域活動支援アドバイザー派遣

東京都主催の事業で、町会・自治会の課題解決のために、さまざまな知識を持った専門家を派遣し、課題の解決に向けたアドバイスを行う。

## ※10 地域活動団体

NPO・ボランティア団体に加え、町会・自治会等地域で幅広く活動する団体の総称。

## 2-3 個性豊かな地域文化の創造

### (1) 個性豊かな文化の創造と発信

#### ※11 (仮称) 芥川龍之介記念館

平成35年に芥川龍之介旧居跡の土地の一部(田端1-20-9)に区が開設予定。芥川龍之介単独での業績を顕彰する施設としては「日本初」。

#### ※12 北区版アーティストバンク

文化芸術活動拠点ココキタで活動する若手アーティストたちの情報を集めたもので、文化芸術活動拠点ココキタのホームページで案内している。

### (2) 歴史的文化の継承と活用

#### ※13 登録有形文化財

築50年を経過した歴史的建造物で、国に登録された文化財。ゆるやかな規制で建物の保存活用が図りやすい。

#### ※14 夏休みわくわくミュージアム

小中学校の夏休み期間に行われるイベント。子供向けの展示や親子向け体験講座などを行っている。

## 2-4 生涯学習の推進

### (2) 学習機会の拡充

#### ※15 学校公開講座

平成4年から開始している、区内小・中学校の施設及び教職員の知識・技能を生かし、地域に身近な学校を地域住民の学習の場として開放する事業。学びたい人がいつでも、どこでも、学習に取り組む生涯学習社会を目指して、地域に深いかかわりを持つ学校が、「開かれた学校」「特色ある学校」づくりの一環として実施している。

#### ※16 リカレント教育

義務教育や基礎教育を終えて労働に従事する職業人になってからも、個人が必要とすれば教育機関に戻って学ぶことができる教育システムのこと。急速に変化する社会において、教育はすべての人々にとって生涯に通じて必要であるという考え方を基礎としている。

### (3) 学習成果の活用

#### ※17 学校支援ボランティア活動推進事業

##### 【関連：2-6(3)(4)】

さまざまな技能や知識を持つ地域の人々が学校と協力して行う、学校の教育活動を支援する活動。

具体的には、授業の支援、運動会等学校行事の支援、読み聞かせ等図書活動の支援など。

事業の実施にあたっては、スクールコーディネーターが学校と地域の人々との連絡調整役として活躍している。

## ※18 地域学校協働活動（学校支援地域本部事業から地域学校協働活動への転換）

### 【関連：2-6（3）（4）】

「地域学校協働活動」とは、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のこと。

従来の「学校支援地域本部事業」との違いは、地域による学校の「支援」から、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」へと発展させていくことを目指していることである。

地域が学校・子供たちを応援・支援するという一方向の関係だけではなく、子供の成長を軸として、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、互いに意見を出し合い、学び合う中で、地域の将来を担う人材の育成を図るとともに、地域住民のつながりを深めることにより、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図り、地域の創生につなげていくことを狙いとしている。

## 2-5 生涯スポーツの推進

### （1）身近なスポーツの場の整備

#### ※19 アスリート手形モニュメント

味の素ナショナルトレーニングセンター等に隣接する区立稲付西山公園に、先端部分が炎の形をした高さ 6.16mの塔型モニュメントを平成 29 年 4 月に設置した。モニュメントの台座には北区にゆかりのある選手などの手形を取付けている。手形は 26 名取付可能で平成 30 年現在、16 名取付済みである。

#### ※20 JOC

公益財団法人日本オリンピック委員会

#### ※21 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるレガシーの創出

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が単なるスポーツの祭典のみならず、大会を契機に文化的・経済的・社会的などのさまざまな分野に影響をもたらす創り出されたもの。

#### ※22 JOC の進めるオリンピック・ムーブメント

JOC が定めたオリンピック精神を念頭に置いた教育活動、社会貢献や情報発信の取り組みをする上での指針。北区が JOC とパートナー都市協定を締結する場合、この指針を北区も推進していくことになる。

### （2）参加機会の拡充

#### ※23 総合型地域スポーツクラブ

人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブで、多世代、多種目、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

#### ※24 初級障害者スポーツ指導員

地域で活動する指導者で、初めてスポーツに参加する障害者に対し、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援する者。

#### ※25 北区スポーツボランティア制度

区がスポーツを支えるボランティア確保・育成を目的に平成 29 年 4 月に創設。区が主催等するスポーツイベントなどの運営補助等を行う。平成 29 年度末で 88 名登録。

## ※26 キッズアスレティックス体験

小学校にオリンピック出場選手らの専門指導員を講師として招き、世界陸上競技連盟が提唱する世界共通の運動能力向上プログラムを実施する。年12回程度。また、教員に対して指導者育成講習を実施している。年2回程度。

## ※27 スポーツ実施率

週1回以上スポーツを行う成人の割合。

## ※28 東京2020参画プログラム

全国各地のまちや地域で開催されるイベントにおいて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の大会気運醸成と、大会後のレガシー創出に向けて取り組むプログラム。プログラムに認証されると大会エンブレム等が使用できる。

## 2-6 未来を担う人づくり

(1) 社会の変化に対応する学校教育の推進

### ※29 小1プロブレム・中1ギャップ

小1プロブレム：小学校に入学したばかりの1年生が、集団行動がとれない、授業中に座ってられない、先生の話を受けない、などと学校生活になじめない状態が続くこと。

中1ギャップ：小学校から中学校に進学した際、勉強についていけない、不登校やいじめが増えるなどの問題が生じる現象のこと。

共に人間関係や環境の大きな変化に伴う問題であるとされている。

### ※30 北区学校ファミリー構想

通学区域の重なる幼稚園・小学校・中学校からつくる近隣複数校園のネットワークにより、1校だけではできないことを複数校園で協力して実践し、質の高い教育を実現することを目的としている。

小中一貫教育や保幼小連携などの基盤となる北区独自の教育システムであり、12のサブファミリーごとに、授業交流や教員研修の合同実施、児童・生徒の学校行事の交流など、様々な連携・交流活動を実施している。

### ※31 ESCや中学校海外交流事業

ESC：中学2年生が、那須の豊かな自然の中で外国人留学生と触れ合い、生活体験や自然体験などの様々な活動を重ねることで、楽しみながら異文化理解を深めることを目的とした事業。

中学校海外交流事業：アメリカの中学生と北区の中学生のホームステイによる相互交流を通して、互いの国の生活、自然や文化、風俗や習慣に触れる事業。

### ※32 第三次北区特別支援教育推進計画

平成30年3月策定。児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた計画的かつ適切な指導及び必要な支援を行うなど、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、特別支援教育の一層の充実を図ることを目的としている。

計画の三つの柱

- ①個に応じた教育の推進
- ②障害のある子もない子もいきいきと学ぶ環境の整備
- ③就学前早期からの一環した支援体制の強化

### ※33 多様な育ちを支える地域連携事業

特定非営利活動法人東京シューレと協働で、不登校の児童・生徒に対して、公民・民が連携し、多様な育ちや学びを理解し、相互の情報交換と協働の仕組みをつくることなどを目的として取り組んでいる事業。保護者同士の相談懇談会、子どものフリースペース、シンポジウムや講座、ワークショップ等を開催・実施している。

(4) 地域に開かれた学校づくり

### ※34 コミュニティ・スクール

学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させるしくみのこと。一般的に、学校運営協議会（保護者や地域住民が学校運営に参加するための組織）によって運営される公立学校がコミュニティ・スクールと通称されている。

## 2-7 グローバル時代のまちづくり

(2) 国際交流・国際協力の推進

### ※35 北区国際交流・協力ボランティア制度

通訳・翻訳の協力、区で発行する外国人のための情報紙の編集協力、国際化関連事業などへの参加・運営協力など、区民と共に地域の国際化や国際交流・協力を進めていくために区が設けている「北区国際交流・協力ボランティア〔愛称：K-VOICE (Kita-ku volunteer of international cooperation & exchange の略)〕登録制度」のこと。

## 2-8 男女共同参画社会の実現

(1) 男女平等の意識づくり

### ※36 LGBT や SOGI

LGBT：レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（性同一性障がい者含む、心と出生時の性別が一致しない人）のアルファベットの頭文字を取った言葉で、「性的少数者の総称」として用いられることもある。

SOGI：性的指向（好きになる性）、性自認（心の性）、それぞれの英訳のアルファベットの頭文字を取った、「人の属性を表す略称」。LGBT の人も含め、全ての人が持っている属性のことを指す。

### ※37 デート DV

交際中の若いカップルの間で起こる暴力のこと。

## 2-9 主体的な消費生活の推進

(2) 消費者の安定

### ※38 高齢者あんしんセンター

地域包括支援センター。北区では「高齢者あんしんセンター」と称している。

地域で暮らす高齢者を、医療・健康・福祉・介護などさまざまな面から総合的に支えるための機関。

①介護予防ケアマネジメント、②総合的な相談・支援、③包括的・継続的マネジメント、④高齢者の虐待防止・早期発見及び権利擁護といった事業を行っている。現在、北区内に17か所ある。